

論文紹介

ツバメの離婚と雌雄の到着時期の差
～なにがツバメの夫婦を別れさせるのか？～

Arai, E., Hasegawa, M. & Nakamura, M. 2009. Divorce and asynchronous arrival in Barn Swallows *Hirundo rustica*. Bird Study 56: 411-413.

今年も三月中旬くらいから、ツバメが古巣へ帰ってきたという便りが届くようになりました。仲よく古巣で身を寄せ合っているツバメ夫婦の姿を見ると、毎年同じ二羽が帰ってきているのだらうと信じたくなるものです。でも本当のところ、どうなのでしょう？そんな疑問に答えてくれる論文を紹介しましょう。

離婚の理由

新井絵美さんたちがツバメの調査をした新潟県上越市は、昔は豪雪地帯であったことから、冬のあいだ通りを歩きやすくするために建物の屋根が歩道に張り出した雁木という長い軒先があり、ツバメたちの格好の住みかになっています(写真)。この街で2005～07年の3年間に168組のツバメ夫婦を捕獲してカラーリングを付けて追跡調査をしたところ、次のようなことが分かったそうです。



写真. 上越の雁木通り。

まず、越冬のために南へ去ったツバメが翌年また戻ってくる帰還率は、オスが47.0%、メスが33.3%で、統計的には両者に差はありませんでした。ヨーロッパや北米で行われている多くの足輪調査からツバメは一度繁殖した場所へ戻

る性質が大変強いことが分かっていますので、この帰還率は実際には生存率と考えてよさそうです。そう考えると、オス・メスともに翌年も生存していたのは168組のうち26組で、その中で離婚した夫婦は65.4% (17組) もいました。

さて、この17組はいったいどのような理由で離婚に至ったのでしょうか？その原因は、オスとメスが繁殖地に到着する日の差にあったのです。つまり、オスがメスより早く到着して、オス・メスの到着日の差が10日以内なら両者はふたたび夫婦になる

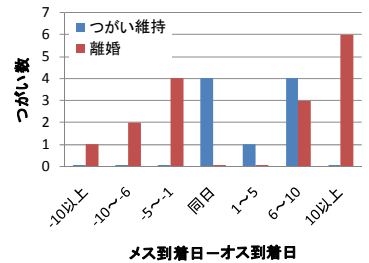


図. オス・メスの到着日の差と離婚の関係。横軸の左へ行くほどオスの到着日が早い。

場合が多いのに対して、オスの到着がメスより1日でも遅れば、メスは別のオスと夫婦になってしまっていたのです(図)。このことから新井さんたちは、ツバメが離婚するのは両性の到着日の差が原因であると結論しています。

さて、この研究では夫婦であり続けたツバメの方が繁殖成績がよかったという結果は得られていませんが(海外の研究ではそのよう結果が得られているものもあるそうです)、早く到着したオスが他のメスに浮気をしないで前年の相手を待ち続けているところを見ると、少なくともオスにとっては前年の妻とつがいを維持することのメリットがありそうで、ツバメもなるべく夫婦関係の維持に努めているのかもしれない。また論文では触れられていませんが、新井さんにお聞きしたところ、オス・メスともに前年の巣の近くに戻ってくる傾向があるのだそうです。

そういうわけで、毎年まったく同じ巣に同じオスとメスが帰ってくることは少ないようですが、渡りをする短命な小鳥に夫婦関係を維持する仕組みがあるというのは、大変興味深い発見だと思いました。

【神山和夫】

参加型調査

巣箱プロジェクト始動！

● 巣箱から環境の変化をモニタリング

シジウカラの卵数は平均で8～9個と言われています。しかし、巣箱を掛けて観察していると「うちの巣箱ではいつも7個くらいの卵が産まれる」とか「今年10羽以上のヒナが孵った！」など、場所や年によって違いがあるのではないのでしょうか。



写真. 巣箱内のシジウカラ。 [Photo by 渡辺仁]

シジウカラは、周辺環境に応じた卵数を産むことが知られています。つまり、周辺の環境が良ければよりたくさんの卵を産み、そうでなければ卵の数は少なくなります。巣箱プロジェクトでは、シジウカラなどの卵の数から、目では見えない環境変化をモニタリングしていきます。

調査方法

この調査で知りたいのは一腹卵数ですが、抱卵中の鳥にプレッシャーを与えると営巣を放棄してしまう可能性があります。そこで、ヒナの声が聞こえ始めた頃を狙います。巣箱からヒナの声が頻繁に聞こえるようになったら、親鳥がいなくなったのを見計らって巣箱を一度覗いてヒナの数を数えてください。ヒナが巣立った後、巣箱の中をもう一度覗いてください。うまく孵らなかった卵があるかも知れません。

この調査では、巣箱を掛けている、もしくはこれから掛けようと思っている皆さまから情報をお寄せいただき、全国的な環境の変化をモニタリングしていこうと思います。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

詳しくはバードリサーチのHPをご覧ください。

http://www.bird-research.jp/1_katsudo/index_subako.html

【本山裕樹】